川柳マガジンクラブ東京句会　11月

平成21年11月8日（日）　駒込学園にて

参加32名　出席22名、投句10名
伊藤三十六、石崎流子、水野絵扇、高田以呂波、加藤品子、関　玉枝、河野桃葉、渡辺まもる、小野　貢、丸山芳夫、村田倫也、藤原栄子、小倉利江、宮原正吉、栗島弥生、秋山和子、真野道雄、星野睦悟朗、棚瀬くんじ、土江裕美、松橋帆波、植竹団扇。
欠席投句
平松　健、菊地順風、山口千枝子、佐道　正、正木三路、石田きみ、白勢朔太郎、浦川一平、山田こいし、ＥＬＶＩＳ。

※　※句評会、課題吟共に全作品のコメントを収録できず、一部となっていることをお詫びいたします。（帆波）

自由吟　句評会

練炭をそっと買ってるサザエさん　三十六

練炭とは最近色々な事件に使われているものです。それを、そっと買ってるサザエさん、というところが非常に上手くできていると思いました。道雄

最近の事件は別として、テレビのサザエさんも、少しずつ新しいことを取り入れなければならない。カツオ君がサッカーをやる時代。昔のサザエさんでは普通に買っていた練炭も、今ではそっと買っているのだろう。芳夫

昔は練炭のイメージは悪いものではなかったが、今では怖いイメージになった。貢

サザエさんは庶民の代表では。本当は秋刀魚を焼くために使いたいのだが、今ではそっと買わないと間違われそう。　流子

サザエさんが、マスオさんを狙っているとしたらブラックジョーク。今の時代だからそっと買う。どちらに取ってもいいが、練炭とサザエさんを取り合わせたところがいい。団扇

お話を聞いてなるほどと思ったが、最初、何故サザエさんと限定されているのかが判らなかった。品子

練炭とサザエさんのつながりが判らなかった。利江

サザエさんが何かを比喩しているのかと取って、論理的に判らなくなった。帆波

作者　三世代が平和に暮らしているサザエさん一家。家庭団欒の象徴。善の象徴であるサザエさんが、隠れるように練炭を買う。そこに怖さを感じていただければと作りました。

白鳥の着地がなぜか決まらない　流子

白鳥が降りてくる姿の写生なのか、時事としてＪＡＬのことなのか、作者にお聞きしたい。帆波

作者　このように表現すればどのように考えていただけるかと思って作りました。白鳥は田んぼを刈った後の二番穂を食べに来るのだが、温暖化で早く田起こしをしてしまい芽が出ないので、白鳥が降りてきてもすれすれまで来てまた飛んでいってしまう。毎年見ていて、いつもとは違う白鳥の姿を詠んだ。

客来れば夫をけなし笑わせる　睦悟朗

普段は夫を立てている妻が、客が来たら豹変している様が面白い。倫也

友人との場面を思い出して実感句としていただきました。栄子

作者　この面白い場面をどうして句にしないのかなと思って作句して見ました。

目に霞かかったらしい妻美人　絵扇

可愛らしい惚気。でれでれなのに目に霞がかかったという照れ。面白い。道雄

作者　旦那とすると字余りになるので「妻」としました。

這い出した穴の狭さを知る離職　品子

※帆波の校正ミスで下五が離婚としてプリントされていました。

「離婚」として取りました。面白い句です。睦悟朗

「離職」と校正されてから取りました。這い出したというところが、世の中の再就職の難しさなどに気付いたのかなと思い、取りました。以呂波

「離婚」として読みました。穴の狭さを知るが離婚と繋がらなかった。倫也

離婚で頂きました。離職と聞いて不思議に思った。家庭内という小さな穴の中での生活と、離婚後に気付いた世間の広さ。という意味で頂きました。現代は離職の方が多すぎるので離婚の方が良かったと思いました。まもる

作者　深く読んでいただいてありがとうございます。「穴」という課題での作品です。

さらさらと秋風感じ彼岸花　裕美

さらさらと感じたのは彼岸花と作者両方なのだろうか。　団扇

作者　公園に散歩に行ったとき、空は真っ青で、風がさらさらとしていた。とても気持ちよく、そのそばに彼岸花が咲いていたので、そのまま詠みました。

あっと言う間だと言われて「あっ」と言う　正

友人との会話でも良く使う。今は十年ではなく、

二、三年で一昔という感じ。絵扇
本当に「あっ」という間を実感することがあるのでそのまま頂きました。裕美
そのままで判りやすかったです。弥生
落語の花見のシーンを思い出して面白いと思いました。
芳夫

条件反射で「あっ」と言ったのが感嘆符なのか、疑問符なのか、状況が判らない。倫也

テラスからプロペラ附けて旅に出る　道雄
スーパーマンを思い出した。最近の事件と関係あるのかなと思ったがそれは別として面白いと思った。芳夫
時事を題材にしているのかどうかが判らなかった。帆波
テラスと旅と言う世界の広さの対比が面白いと思いました。プロペラはタンポポの種かなと思う。以呂波
子供の夢。模型飛行機。今でも空を飛んでいる夢を見るときがある。倫也
作者　未来の夢。プロペラで自由に生きたいところへ行ける世界。そんな夢を形にして見ました。

ウキスキー種火を捜す旅である　帆波
ウキスキーというから中年、熟年ですかね。バーで恋の種でも探しているのでしょうか。流子
ウキスキーはニッカでは。かなりご年配の方か。句意が判らない。三十六
ウイスキーの瓶を持ってハプニングを探す旅なのかと思ったが、判らない。くんじ
ウキスキーに拘るのは何か意味があるのだろうか。玉枝
全く判らない。種火と旅との関係も判らない。絵扇
ウキスキーなのでただのウイスキーではないだろうが。
団扇
作者　皆さんに疑問を持っていただこうと思って作った。捜すという表現で、あったものがなくなったという意味を持たせて、ウキスキーという古い表記を置いた。行き詰った時にお気に入りのウイスキーを飲んで、もう一度自分を見つけてみたい。そんなイメージです。

凡人もいくつ跨いだ水溜まり　利江
意味的にはよく判らないのだが、何となく良い句だと思う。貢
人生には色々なことがあり、皆苦難を乗り越えて今があるのだなと思った。玉枝
素敵な奥様でもいろいろな過去がある。そして素敵な実感句が生まれる。そう思います。桃葉

そこのけそこのけマニフェストが通る　健
マニフェストを通すのに一生懸命なところが見えて取りました。栄子
判りよくて、インパクトがあります。品子
選挙が終った後の状況。判りやすい作品。団扇

峠こえ視界広がる人生譜　栄子
人生譜という言葉は重いので、当たり前の流れで作るとうまく決まらない。団扇
作者　年齢を重ねて視野が広がってきたという実感を詠みました。

練炭に一行増やす注意書き　順風
一番目の句と比較して選びました。「練炭に一行を足す」と比較してみたいです。今様の句でいいと思います。
まもる

「一行増やす注意書き」が面白い。品子
作者　どんな注意書きを加えましょうか「婚前旅行に持参しないでください」はいかがでしょうか。

招待状貰い御世辞を提げていく　倫也
川柳として上手な作品。三十六
結婚式などで、前もってお世辞を考えて行くというところが面白い。くんじ
結婚式のことを思い出して面白いと思いました。玉枝
結婚式を連想しました。お土産を下げながらという状況も考えると面白い。裕美
お世辞という皮肉が効いているいい句だと思う。利江
結婚式などで祝辞を話す場合、結構準備が必要なので、提げるという表現がとてもいいです。道雄
作者　十四字詩で「お世辞を提げて個展見に行く」と詠んだものを十七音時に焼直したものです。

幾星霜御愛顧感謝店仕舞　以呂波
リズム、文字から受けるビジュアル、全体としてとてもいい作品だと思います。帆波
作者　店仕舞という言葉を見て、店主にとっても客にとっても哀愁があるなと思いました。

数独を解いてやったぜワトスン君　くんじ
内容よりも、シャレていて面白い句だと思った。利江
数独を解いて、やっと出来たという嬉しさが出ていて、良いと思いました。和子
数独という言葉を川柳に持ってきたところが手柄。帆波
ワトスン氏は数学で有名な人の名前でしょうか。芳夫
作者　新聞などで、数独やクロスワードを解いています。解けたときは嬉しい。シャーロック・ホームズのように煙草は吸わないが、焼酎の一杯でも飲んでみたくなる。ワトスン君はホームズに出てくる人物です。

没と佳のはざま選者を悩ませる　千枝子
楽屋吟といえば楽屋吟。競吟の性質上、選者氏は悩むのだろうな、というところか。帆波

ブレンドで嫁と姑の愚痴を飲む　一平

母親と嫁の間に挟まっている気持ちがよく判る。類想句は多いが、愚痴を飲むという表現が良い。三十六

嫁と姑が喧嘩したらどちらに付こうか、それとも仲介しようか、どちらも難しいならいっそ飲んでしまえ。飲むという表現で悲哀がはっきり判ってよい句だと思いました。まもる

争うより飲んでしまったほうがその場も収まるのではと思いました。玉枝

ブレンドというところが交じり合うイメージで、それが嫁と姑の愚痴を飲むという表現になり面白い。裕美

男の方は随分大変だったでしょうね。うちのブレンドは不味かっただろうなぁと思いました。和子

ブレンドを珈琲に喩えた。二人の苦味も酸っぱ味も、俺が飲むことで丸く収まるなら、という印象。絵扇

皆様のお感じなったのと同じです。栄子

嫁姑の句は沢山ありますが、本人の辛い立場を面白く詠んだ秀逸の句だと思います。倫也

こういうテーマの作品は数々あるが、素直に現状を詠んでいる。そこが抜きん出ている理由だろう。帆波

愚痴を飲むと、ブレンドが絡んでいて、良いが、「で」という表現で立ち位置が判らなかった。品子

言い訳が下手で借金言い出せず　三路

コメントがありませんでした。

友と飲むコーヒー時に苦くって　ＥＬＶＩＳ

友達といても楽しいばかりではないこともある。実体験かなと思う。弥生

どういう友達だろうかと思った。玉枝

哀れだと思う心もまた哀れ　桃葉

心の動きを詠んでいる。弥生

哀しいのだけれど、そう思う自分もいやだなという感情。

絵扇

作者　実感句です。涙脆いもので、その時に感じた心の動きです。

透きとおる青空愚痴は止めにする　きみ

よく判ります。貢

平凡な句だと思ったが、自分が画を描くときに、川柳を添えるとしたら、このようにスカッと爽やかに作ることが出来たらいいなと思った。睦悟朗

真っ青な空が透きとおっていて、やっぱり愚痴は言わないほうがいいなと思いました。とてもいいと思います。

桃葉

気分のいい句です。青空を感じます。くんじ

エンゼルの羽では飛べぬ物理学　まもる

天使の羽と物理学の関係がわからなかった。くんじ

面白い句だと思います。芳夫

物理学と離れたものを取り合わせた衝撃は感じるが、個人的に天使の羽は跳べるものだと信じているので。

睦悟朗

作者　エンゼルの像を見ると小さな羽が背中に付いている。教条主義的に見ると、あれでは飛べないとなってしまうので、私たちはもう少し夢を見たほうが良い、という思いで作りました。

狙ってた釣りの穴場へ先越され　玉枝

孫に付いて行ってよくこのような光景を見ました。和子

作者　穴という課題で作った作品です。没になったので皆さんのご意見をお伺いしたかった。

親指トム親指姫がするメール　貢

物語にあったのかもしれないが、意味が判らなかった。

くんじ

メールするときに指を使うので、と思ったが、お聞きしたい。裕美

作者　若い人たちが親指を器用に使ってメールしているのを見て詠みました。

アナログのテレビに映える月見草　こいし

コメントはありませんでした。

作者　今や、ヒマワリ(長島・王)より脚光を浴びる月見草(楽天の野村監督・・正しくは前監督でしょうか？)

一言一言が的を射ている様に思いますが、弱小チームをクライマックスシリーズに参加できるように成長させた技量も、一年契約と言う事で、ファンの気持ちはＩＴ系の経営者には通じてないのでしょうか。アナログテレビの廃止よりも少し早いですが、時代は変わらなければいけないのでしょうか？

ありふれた店で嬉しい味に遇う　芳夫

嬉しい味という表現に惹かれました。帆波

お酒を飲む店を頭に描いたのですが、おふくろの味と書いてあっても、なかなかそういう店がない。嬉しい味に会うというところ、好感を持ちました。睦悟朗

ありふれた店というのが好きです。嬉しい味というところ、読む人がそれぞれ想像出来て良いです。以呂波

ふらりと歩いて居たら、ちょっと見つけてお店で、昔の味に会って、とても嬉しかったことを詠まれたのでは。

桃葉

作者　テレビで大林監督が対談してた時の表現に引かれて詠んでみました。

第三の男になってビール飲む　団扇

この句を読んだとたん、第三の男のあのギターの音色が思い浮かんだ。例え第三のビールを飲んでいても、自分自身は格好いい雰囲気で飲んでいるのだろう。

流子
洒落ていて面白いと思いました。利江
誰がビールを飲むのかなと思った。第三の男とは誰のことだろう。弥生
第三の男と第三のビール掛け言葉かなと思いました。　芳夫
作者　第三の男と、第三のビールを掛けた。自分では第三のビールは飲まない。仮に飲む場合は、三枚目にならないと飲めないだろう。そういう思いです。

ダスキンのおばさんが来る汚さなきや　朔太郎

あまり汚れないうちに交換の日が来て、もったいないので次まで使ってくださいといわれたことがあった。気持ちがよく判る句です。玉枝
作者　ダスキンの交換日は決まっているのだが、うっかりして忘れていることがある。そこで一日位前になると慌てて掃除で汚すことを心がける？ことが多い。そんな日常の出来事の一句です。

課題吟「神様」小倉利江選

「佳作」

神様も依怙贔屓なんかしてさ　品子
初詣で今年は頼むいい出会い　弥生
ちょっかいを出されて居つく山の神　三十六
神様が見ているお祈りの密度　芳夫
神無月神のバカンスかも知れぬ　朔太郎
採用をくれた会社が神に見え　玉枝
自爆テロアラーの神も絶句する　朔太郎
神様のような口利く占い師　道雄
あちこちの神様連れて子は受験　正
縁結ぶ神も近頃怠け気味　睦悟朗

「秀」

景気策神頼みより金頼み　健
人間に生れ変った神もある　三十六
賽銭の額を神様聞き分ける　団扇

「特選」

八百万の頂点に立つ山の神　団扇

「没句評」
・焼餅を焼く神様と暮らしおり
下五にもう一工夫欲しかった。やはり下五は大事だと思う。
・生臭の神主も居る縄のれん
生臭坊主を変えた言葉か、生臭の神様と比較してみたい。
・遅老遅死右往左往の福の神
遅老遅死という言葉はない。もう少しこなれた言葉を使ったほうがいい。音だけでは判らない。
・礼拝の屋根の十字架頭下げ
どうして十字架が頭を下げたのか判らない。
など、利江さんから、ご意見を頂きました。

課題吟「神様」丸山芳夫選

「佳作」

賽銭の額を神様聞き分ける　団扇
紅一点揉めなかったか七福神　くんじ
縁結ぶ神も近頃怠け気味　睦悟朗
百歳の笑み神様に近くなる　利江
初詣で今年は頼むいい出会い　弥生
難病を授けた神を信じない　一平
天使の矢たわむれらしい赤い糸　貢
朽ちた葉のその先も神思し召し　流子
神無月終えて帰らぬ神も有り　道雄
神様は誰を信じて生きている　まもる
月番で田の神様をうちへ泊め　和子
神様の意地悪いつも罰ばかり　貢

「秀」

ポンと肩叩きたくなる恵比寿さん　正
バッカスとヴィーナスのいる店が好き　団扇
山やがて神の彩へと染め上がる　流子

「特選」

神様が見ているもんとつぶらな瞳　くんじ
軸　神様がちらりと懺悔室の窓　芳夫

「没句評」
・神様の都合聞かずに今日も呼び
中七までは良かったのだが、下五が弱い。
・神だけが知る行く末へ誓詞読み
その先は判らないという意味だが、良くある着想。
・礼拝の屋根の十字架頭下げ
礼拝をした後で、屋根の十字架にも頭を下げたという意味だろうか？言葉の順に難があると思う。
など、芳夫さんから、ご意見を頂きました。

続きまして、課題吟「神様」の特選、団扇さんと、くんじさんによる五分間吟を行いました。選考結果は次の通りです。

五分間吟「扇」植竹団扇選

「佳作」

扇雀飴今ごろどこにあるのやら　まもる
辛い修行扇子眉間へ飛んでくる　桃葉
夜の蝶扇すぼめて託児所へ　三十六
花吹雪あおぐ扇に寄席がわく　睦悟朗
落語家の扇箸にも刀にも　くんじ
縁台で扇子少女の肌淡く　桃葉
疲れ気味いやいやをする扇風機　三十六
帯に差す扇子が決めている女　品子
うなぎ屋の団扇がおいでおいでする　利江
秋日和団扇にのせる庭の柿　和子

「秀句」

扇風機去年の事は忘れてる　芳夫
どうやって書いた扇子のサイン読む　芳夫
扇風機昭和演出するカフェ　品子

「特選」

日本の汗をあおいでいる扇子　流子

五分間吟「歩く」棚瀬くんじ選

「佳作」

よく歩く人で小金を貯めている　帆波
万歩計見せ合い明日へ望みかけ　和子
下町を歩けば地域猫に会う　品子
女房の後ろについて行く歩数　まもる
一万歩刻まぬままの歩数計　まもる
一駅を手前で降りるダイエット　利江
前を行く人の歩幅が気にかかる　倫也
飼い主が犬に合わせて散歩する　流子
ゆっくりと歩けと妻に言う始末　睦悟朗
そのうちに走りたくなるウォーキング　芳夫
マイカーを捨てると街が見えて来る　品子

「秀句」

さぁ歩け術後に妻は容赦ない　流子
クラス会懐かしい町一廻り　品子
子と歩く秋が軽々散歩道　玉枝

「特選」

この坂を歩いた先にある夕陽　帆波

以上

まとめ　松橋帆波